

遊びの内容がマンネリ化し、創造的な活動になるよう助言することの重要性を感じた。また、色別活動を行うことでどんな力をつけたいのか、各学年の発達段階に応じた明確なめあてを設定することも重要であると考えた。

(3) 委員会

5、6年生児童からなる9つの委員会では、各委員会の話し合いによって自分たちの学校を自分たちの力でよりよくしていこうという活動がなされている。

また、定期的に行われている代表委員会では、各委員会の委員長と3年生以上（後期からは2年生も参加）の代表委員が昼休みに集まり、学校全体で取り組む生活目標について話し合っている。1学期は、生活目標を「友だちを大切にする」とし、具体的な学級目標を立てた。2学期は、「おまかせいしべっこ」の「お」の「大きな声であいさつをしよう」を学校の生活目標として取り組み、3学期は「おまかせいしべっこ」の「し」の「しずかにろうかは右側を」を学校の生活目標にし、学級の具体的な目標を決めて取り組んできた。



代表委員会では児童一人ひとりの意見が学校生活に反映され、児童が主体的によりよい学校作りを目指す場となっている。しかしながら、話し合う時間が昼休みということもあって、来るのを忘れてしまう児童がいることや、低学年児童に自治的な活動をどのように伝えていけばよいかという課題もある。

(4) クラブ

本校のクラブ活動は、児童による自治的な活動、主体的な活動をねらいとして、6年生の児童に自らクラブを考えさせ、一から立ち上げさせている。

まず、6年生の児童に、どんなクラブを創りたいかを考えさせた。どのような活動をするクラブなのか、年間を通した活動計画はどのようなものか、本当にうまく異学年交流ができる内容であるのか等を思考の軸として考えさせた。そして、学年で集まり、おのものが考えてきたクラブを出し合った。話し合いの中で、活動場所等をすり合わせながら活動の精選、類似活動の統合をし、今年度は9つのクラブが誕生した。その後、6年生は自分の希望するクラブに入り、そのメンバーで原案を元に活動内容を練り上げた。自らが考えたアイデアや工夫がクラブ活動に取り入れられていくことで、児童は大きな達成感と責任感を持ちながら活動計画の作成に取り組んでいた。その後、児童集会でクラブをPRし、